

平成20年度
(2008)
第48回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌日大

【 大会寸評 】

今年度は天候にも恵まれ、予定通り試合を消化できました。今年の団体戦は、男子・札幌藻岩高（28回目）、女子・札幌日大高（5回目）が優勝を遂げ、結果的には両校とも2連覇となりました。地方勢では、男女とも函館支部代表の市立函館高（男子）、函館白百合学園高（女子）がそれぞれ3位に食い込み健闘しました。個人戦シングルスでは、男子で伊藤敏史（札幌藻岩）、女子では山下ちなみ（札幌日大）が優勝しました。特に、山下ちなみ選手は1ゲームも落とすことなく完勝の優勝でした。他に全国大会に出場する選手は、男子が、濱口涼太（札幌日大）、工藤康史（札幌日大）、菅野翔太（札幌藻岩）、女子は羽川沙織（札幌日大）、平野栄衣（札幌日大）、宮嶋沙希（札幌清田）の各選手です。個人戦ダブルスでは、男女とも札幌日大高どうしの決勝となり、他校の追従を許さない結果となりました。特に男子では、田中・溝口組が2連覇を果たし、ダブルス強しを印象づけました。また女子では、山下・杉村組が優勝しました。他に全国出場する選手は、男子が、工藤・千葉組（札幌日大）、女子は羽川・中村組（札幌日大）の各選手です。以上、各選手のインターハイでの活躍を期待したいと思います。

【 全国大会 】

埼玉県で行われた今年のインターハイは、昨年同様、地元で宿泊施設が確保できないため、東京から通うスタイルで実施されました。このスタイルは選手・監督にとって大きな負担となり、今後のインターハイのあり方に課題を残していると言えます。しかし、大会そのものは天候にも恵まれ予定通り進行した数少ないインターハイでもありました。団体戦は、男子の札幌藻岩高がベスト16入りし、女子の札幌日大高は初戦突破後、地元埼玉代表の秀明英光高と接戦になりましたが、惜しくも敗れ2回戦での敗退となりました。個人戦シングルスでは、何とんでもなく山下ちなみ（札幌日大）選手のベスト8進出が光りました。これは、北海道女子選手にとって初の快挙であります。これにより、来年の出場枠が女子シングルスで一つ増えることから、その功績が顕著であるといえます。山下ちなみ選手は、2年生であることから来年のインターハイでの更なる活躍が期待されます。その

他の選手では、男子の工藤康史（札幌大）選手が3回戦進出、菅野翔太（札幌藻岩）選手も初戦を突破し2回戦に進み男子も健闘が光りました。また、他の女子シングルスでは、同じく2年生の平野栄衣（札幌大）選手が2回戦に進出しました。残念な結果だったのは個人戦ダブルスです。男女とも札幌大高のペアが全て初回戦で敗退してしまったことです。来年のリベンジを期待したいところです。

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

僕達札幌藻岩高校男子テニス部は、今年優勝したことで高体連北海道支部大会2連覇を達成した。藻岩の今大会の前評判はとても低かったので、勝ちたい、勝たなければならぬ決勝戦だった。ですから優勝が決まったときは、喜びが爆発して、コート上で仲間と抱き合っていた。苦しいときでも、コート外で声を張り上げて応援してくれた仲間と勝ち取った優勝だった。

決勝ではなぜか全く負ける気がせず、緊張や不安はまったくなかった。試合は苦しいながらも終始リードしていたが、相手が相手なだけに気が抜けなかった。相手が自分と同じような実力だと、たとえどんなにリードしていても1ポイントが重くなってくる。しかしその重い1ポイント、要所の1ポイントを取るために毎日練習してきたのだ。そしてたとえ相手がどんなに格上でも、後半に競ると実力の差は関係なくなると思う。最後に勝つのは負けまいと思う心と、とどんな球でも追いかけて絶対に返すという気持ちの強い方だと自分は思う。実際自分は両足を擽っていたが、どんな球でも拾って打ち勝つことができた。しかし今思うことは、もっともっと体力面を強化しておけば、あんなに辛い思いはしなかっただろうということだ。テニスは勝つか負けるかのあの緊張感がとても楽しい。まして格上を倒した時の快感は言葉にできない。どんな事でも上達するためには、それを楽しんでやるのが一番大切だと思う。

（札幌藻岩高校 主将 伊藤 敏史）

優勝のよろこび

女子 札幌日大高等学校

今年は私にとって最後の高体連だったので、団体戦は必ず優勝すると心に決めていました。そして、優勝が決まった時は喜びと安堵の気持ちでいっぱいでした。前チームは3年生2人、2年生1人、1年生4人で団体戦を豊富に経験した先輩方が引っ張る形で勝ち上がっていきました。しかし、新チームは3年生1人、2年生5人、1年生1人で、戦力的には前チームとあまり変わりませんでした。経験の豊富さで劣っていました。チーム全体が人任せにして、コート上での自分のやるべき事が見えない試合をすることもありました。そこで、チーム全体の目標を『全国制覇』とし、一丸となって厳しい練習やトレーニングも励まし合い、お互いの技術、メンタルを向上させてきたのです。決勝戦では3面展

開でD、S1、S2すべてが入り、誰が最初に勝つかを競うかのように、チーム全体が、1本も渡さない！一歩もひかない！という姿勢でした。そして札幌西高校に2-0で勝ち、インターハイを決めたのです。個人戦シングルス、ダブルス共に出場した選手全員がインターハイを決めることができました。

最後に、3年間ご指導下さった我妻先生や応援して下さい下さった方々にたいへん感謝しています。ありがとうございました。来年も後輩たちには一丸となって攻めのテニスで全道を制し、インターハイ出場、全国制覇を目指して頑張ってもらいたいです。

(札幌日大高校 主将 羽川 沙織)

全国高校総体（第98回全国高等学校庭球選手権大会） 埼玉

8月2日～8日

大宮第2公園テニスコート
天沼テニス公園

男子	個人戦シングルス	優勝	守屋 宏紀（湘南工科大附）
女子	個人戦シングルス	優勝	小城千菜美（長尾谷）